

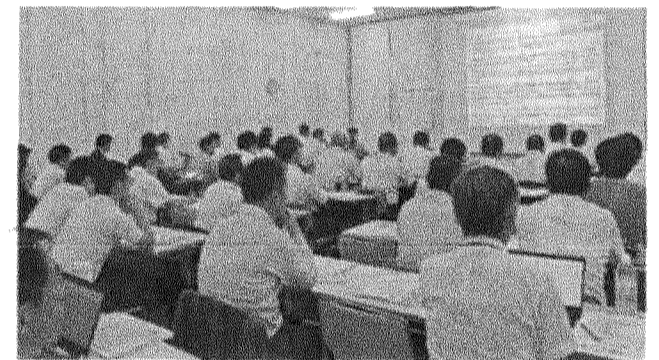
三井住友海上

トラック・バス・タクシー事業者向け働き方改革セミナー

ロボットの活用効果紹介

三井住友海上、NPO法人ロボットビジネス支援機構(RobBiz)とNPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS)は7月25日、埼玉県さいたま市の新都心ビジネス交流プラザで、トラック・バス・タクシー事業者のための「先端技術を活用した働き方改革セミナー」を開催した。同セミナーでは、さまざまな分野の専門家7人が、作業負担の軽減や効率化、事故防止のためのAI・IoT・ロボットの活用事例やその効果などを紹介した。当日は、実際にロボットや最新の機器・システムの体験会も行われ、約70人が参加した。

の持続的な成長を左右するとされている。



約70人が熱心に聴講

運輸業界(トラック、バス、タクシー)では、不足の乗務員(ドライバー)に業務をさせては、2018年6月から睡眠

の健康管理への注力が求められている。このような状況の中、省力化・自動化など生産性向上や従業員の負担軽減・モチベーションアップにつながる新しい技術(ロボット・AI・IoTなど)の活用が企業

の「見守りロボット」農業の「自動収穫ロボット」飲食業界のオートフライヤーなどの自動調理

発生した事故などに対する保障はないことから、「中長期の観点で保険ビジネスにつなげていく

ロボットの活用方法や導入した際の効果を紹介します。腰への負担が最大で40%軽減できることが

ら、腰痛で離職してしまう人材の防止にも効果があると説明した。続いて事業用自動車用の安全・事故防止システムなどを製造している(株)トライブロ代表取締役の高木宏昌氏が「IT技術を活用した疲労度測定・管理システム」を紹介。疲労度は、「フリッカ」と呼ばれる目のちらつきを認知する能力が落ちることで判断され、その認知が遅れると運転時の急減速の回数が増え、事故につながるという説明した。フリッカー値を測定する機械を導入することで、乗務員の疲労度の数値化を可能にし、乗務前に注意喚起ができると強調した。

の「見つけ方」をテーマに、IoTを活用することで、最適なルートを選択を可能にし、業務効率化につながる技術を紹介した。

北河氏

「踏み込んだドライバーバ

間と共存すること必ずリスクが発生すると示唆し、それに対するリスク管理の必要性を強調し

発生した事故などに対する保障はないことから、「中長期の観点で保険ビジネスにつなげていく

ロボットの活用方法や導入した際の効果を紹介します。腰への負担が最大で40%軽減できることが

ら、腰痛で離職してしまう人材の防止にも効果があると説明した。続いて事業用自動車用の安全・事故防止システムなどを製造している(株)トライブロ代表取締役の高木宏昌氏が「IT技術を活用した疲労度測定・管理システム」を紹介。疲労度は、「フリッカ」と呼ばれる目のちらつきを認知する能力が落ちることで判断され、その認知が遅れると運転時の急減速の回数が増え、事故につながるという説明した。フリッカー値を測定する機械を導入することで、乗務員の疲労度の数値化を可能にし、乗務前に注意喚起ができると強調した。

の「見つけ方」をテーマに、IoTを活用することで、最適なルートを選択を可能にし、業務効率化につながる技術を紹介した。

の「見つけ方」をテーマに、IoTを活用することで、最適なルートを選択を可能にし、業務効率化につながる技術を紹介した。

業務見直し乗務員の健康管理注力

NPO法人ヘルスケアネットワーク副理事長でRobBiz顧問の作本貞子氏は「運輸ヘルスケアビジネス」を活用したドライバーの健康管理方法」と題し、健康データを活用して、ハイリスク者の見える化やドライバー不足の解消、予防対策の推進、健康な従業員の確保による健康経営に役立つシステムを紹介した。

homai web

保険毎日新聞社のホームページ

http://www.homai.co.jp